



新庄まつり：ユネスコ無形文化遺産

第43回 全国公民館研究集会
 令和3年度 東北地区社会教育研究大会
 第66回 東北地区公民館大会 山形大会
 (兼) 第12回 山形県社会教育研究大会・第59回 最上地区生涯学習推進大会
 第38回 山形県生涯学習振興最上大会

＝ 研究主題 ＝

「未来を拓く社会教育の在り方」

～引き継ごう地域の宝と絆 生み出そう新しい地域の姿～

山形大会

新庄会場

令和3年 10/14 木

山形県内のみ参加可能/他東北各県はリモート参加
 会場 | 新庄市民文化会館・新庄市民プラザ

参加費

- ◆山形県内の方/2,000円〔・当日の資料・記録集〕
 (弁当をご希望の方は別途1,000円)
- ◆山形県外の方/WEB視聴無料
 (記録集をご希望の方は別途1,000円)

対象

- ◆全国・東北各県及び市町村の社会教育委員
- ◆公民館関係者 ◆社会教育関係職員
- ◆生涯学習・社会教育・学校教育関係者
- ◆社会教育に関心のある方

主催 公益社団法人全国公民館連合会、一般社団法人全国社会教育委員連合、東北地区社会教育委員連絡協議会、東北地区公民館連絡協議会、山形県社会教育連絡協議会、最上地区生涯教育推進協議会

共催 山形県教育委員会、山形県市町村教育委員会協議会、新庄市教育委員会、金山町教育委員会、最上町教育委員会、舟形町教育委員会、真室川町教育委員会、大蔵村教育委員会、鮭川村教育委員会、戸沢村教育委員会

後援 文部科学省、全国公民館振興市町村長連盟、社会教育団体振興協議会、青森県教育委員会、岩手県教育委員会、秋田県教育委員会、宮城県教育委員会、福島県教育委員会、山形県、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、山形県市長会、山形県町村会、公益財団法人山形県生涯学習文化財団、山形県連合小学校長会、山形県中学校長会、山形県高等学校長会、山形県特別支援学校長会、山形新聞・山形放送、山形テレビ、テレビユー山形、さくらんぼテレビ、NHK山形放送局、朝日新聞山形総局、毎日新聞山形支局、読売新聞山形支局

大会内容

リモート
開催

10月14日(木) 9:00～16:00 新庄市民文化会館・新庄市民プラザ

趣旨

戦後、新たなスタートを切った我が国の社会教育・公民館活動は昭和から平成、そして令和へと、それぞれの時代を背景に様々な事業を展開し、地域づくりや文化の振興等に大きく寄与してきました。そのような中、近年は人口減少に伴う地域の担い手が不足したり、人と人とのつながりが薄くなったり等、地域社会での課題が顕在化してきました。さらに昨年の新型コロナウイルス感染症の影響で私たちの生活は一変しました。日本のみならず世界が新たな生活様式を模索していく中、社会教育・公民館活動の在り方も大きな転換点を迎えています。これまで連綿と築き上げられてきた地域の宝や絆・風土を生かしながら新たな時代の地域づくり・人づくりを推進するための社会教育・公民館活動の在り方について、東北各地の実践を持ち寄りながら研究・協議することによって、今後の社会教育・公民館活動の一層の充実と発展を目指します。

大会スケジュール

9:00	9:25	10:05	11:10	12:30	13:45	16:00
受付	開会行事 次期開催県挨拶	郷土からの メッセージ	シンポジウム	※ 昼食休憩	分科会 (分科会毎閉会)	
新庄市民文化会館				移動	新庄市民文化会館 新庄市民プラザ	

※最上伝承野菜を使った地元高校生考案の弁当を用意しております。ぜひご賞味ください。(事前申込制)

開会行事

9:25～10:00

- | | | |
|-------------|---|-------------------------|
| (1) 開会のことば | 大会会長 東北地区社会教育委員連絡協議会 会長 | 安藤 耕己 |
| (2) 国歌斉唱 | | |
| (3) 主催者挨拶 | 公益社団法人 全国公民館連合会 会長
一般社団法人 全国社会教育委員連合 会長 | 中西 彰
鈴木 真理 |
| (4) 来賓挨拶 | 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課長
山形県教育委員会 教育長
新庄市長 | 根本 幸枝
菅間 裕晃
山尾 順紀 |
| (5) 表彰 | 公益社団法人 全国公民館連合会 表彰
東北地区社会教育委員連絡協議会 表彰
東北地区公民館連絡協議会功労者 表彰
山形県社会教育連絡協議会 表彰
最上地区生涯教育功労者 表彰 | |
| (6) 次期開催県挨拶 | 「福島県」 | |
| (7) 閉会のことば | 東北地区公民館連絡協議会 会長 | 熊澤 義也 |

郷土からのメッセージ

10:05～11:05

- | | |
|-------|-------------------------|
| 群 読 劇 | 「土に叫ぶ人 松田甚次郎～宮沢賢治を生きる～」 |
| 出 演 | 新庄演劇研究会、新庄種プロジェクト、東北幻野 |

シンポジウム

11:10～12:30

- | | | |
|----------|--|------------------------|
| 演 題 | 「郷土づくりと地域からの文化の発信と創造」～宮沢賢治と松田甚次郎の実践から学ぶ～ | |
| コーディネーター | 東北芸術工科大学 特命教授 | 渡部 泰山 |
| シンポジスト | 新庄市社会教育委員 | 近江 正人 (新庄演劇研究会 代表・詩人) |
| | 新庄ふるさと歴史センター 所長 | 八 楸 幸 紀 (新庄種プロジェクト 代表) |
| | 金山町立金山小学校 教諭 | 海 藤 富 美 (東北幻野 団員) |

第1分科会

会場

新庄市民文化
会館大ホール

テーマ

持続可能な地域づくりの担い手となる若者や女性が
活躍できる社会の構築【若者活躍・男女共同参画】

助言者 山形大学 地域教育文化学部
事例提供者 一般社団法人 とらいあ(山形県)
NPO法人 みやっこベース(岩手県)

教授 安藤 耕己
専務理事 高橋 一枝
理事・事務局長 早川 輝

第2分科会

会場

新庄市民プラザ
大ホール

テーマ

地域とともにある学校づくり・学校を核とした地域づくり
の推進【学校・家庭・地域の連携協働】

助言者 一般社団法人 とちぎ市民協働研究会
事例提供者 高島町和田地区地域学校協働本部(山形県)
仙台市立柳生小学校(宮城県)

代表理事 廣瀬 隆人
地域コーディネーター 二瓶 ひろみ
教頭 水口 芳仁
学校支援地域本部スーパーバイザー 兼 地域学校協働活動推進員 石橋 ひろみ

第3分科会

会場

新庄市民プラザ
ギャラリー

テーマ

これからの時代を見据えた公民館とコミュニティ
センターの在り方【公民館活動と地域コミュニティ】

助言者 弘前大学 教育学部
事例提供者 和合の里を作る会 庄内町余目第四公民館(指定管理者)(山形県)
にかほ市教育委員会 仁賀保勤労青少年ホーム(秋田県)

准教授 越村 康英
館長兼事務局長 高橋 逸夫
副主幹 須藤 恵

第4分科会

会場

新庄市民プラザ
小ホール

テーマ

誰もが共に成長し認め合える地域社会の実現
【障がい者の生涯学習・共生社会】

助言者 東北大学大学院 教育学研究科
事例提供者 NPO法人 指定障がい福祉サービス事業所「すぎのこハウス」(山形県)
障害者支援サークル「麦の会」代表/障害者サークル「くるみの木」主宰/
青森市中央市民センター主催「はまなす青年教室」サポートリーダー(青森県)

准教授 松本 大
所長 佐藤 明美
若木 政人

第5分科会

会場

新庄市民文化
会館小ホール

テーマ

これからの時代に求められる社会教育委員と公民館運営
審議会委員の役割【社会・公民館に係る委員の役割】

助言者 福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター
事例提供者 醍醐地区慈恩寺花火大会実行委員会(山形県)
川内村コミュニティ未来プロジェクト(福島県)

特任教授 天野 和彦
事務局長 茂木 藤雄
事務局長 佐原 禅

参加申込

参加者

大会事務局

- 1 **A 個人で申込の場合…**
右下のQRコードから申込フォームにアクセスし申込【期限:8月31日】
- B 教育委員会などの団体で申込の場合…**
HPから申込用紙(Excelシート)をダウンロードし、メールで申込
メールアドレス / kakizaki@kokocolor.life 【期限:8月31日】
- 2 請求書、申込確認書を発送【9月初旬】
- 3 指定口座へ費用の振込【期限:9月24日】

※本大会に係る表彰者については参加費無料としておりますので、お申込手続きの際はご注意ください。

A 個人申込の方は
こちらから ▶▶▶



申込フォーム

B 団体申込の方は
こちらから ▶▶▶



大会HP

会場案内

全体会や分科会は、当日、インターネットでのライブ配信を行います。
リモート参加の方へは、後日、参加方法等についてお知らせいたします。
詳細については、大会ホームページをご覧ください。

全体会・分科会会場

新庄市民文化会館

山形県新庄市堀端町4番67号 TEL/0233-22-7029

分科会会場

新庄市民プラザ

山形県新庄市大手町1番60号 TEL/0233-22-4200

◆お車で越しの方は会場の駐車場、または新庄駅東口駐車場、最上公園あじさい広場駐車場をご利用ください。



山形県新庄市イメージキャラクター

かむてん

©新庄市×富樫義博

大会事務局

第43回 全国公民館研究集会
令和3年度 東北地区社会教育研究大会
第66回 東北地区公民館大会山形大会
(兼)第12回 山形県社会教育研究大会
第59回 最上地区生涯学習推進大会
第38回 山形県生涯学習振興最上大会

実行委員会事務局

-43-

〒996-0002

山形県新庄市金沢字大道上2034

山形県教育庁最上教育事務所社会教育課内

TEL/0233-29-1441 FAX/0233-23-5573

【担当:八城 良美】

第 43 回全国公民館研究集会・ 令和 3 年度東北地区社会教育研究大会等 特集

開会行事

安藤耕己大会会長の「開会のことば」により、大会の幕が切られました。その後、永年にわたり公民館活動や社会教育・生涯学習に大きく貢献した公民館、個人、団体を称える表彰式を、森の楽器の会「ベルフォレ」の演奏をバックにオンラインで行われました。東北地区社会教育委員連絡協議会表彰の被表彰者代表として、舟形町の小國隆氏に表彰状が授与されました。



郷土からのメッセージ

「土に叫ぶ人 松田甚次郎 ～宮沢賢治を生きる～」

郷土愛に満ち溢れ、故郷を明るく楽しいものにしようと、農村の若者とともに生活改善活動に生涯をささげた松田甚次郎の生涯を、「新庄演劇研究会・新庄種プロジェクト・東北幻野」の方々による映像とナレーションにより紹介しました。



シンポジウム

「郷土づくりと地域からの文化の発信と創造」～宮沢賢治と松田甚次郎の実践から学ぶ～

前段の「郷土からのメッセージ」を受けて、松田甚次郎の実践を紐解いていきました。新庄市社会教育委員の近江正人氏、新庄ふるさと歴史センターの八鍬幸紀氏、金山小学校の海藤富美氏をシンポジストに迎え、地域の活性化と人づくり、人と人との繋がりづくりについて、松田甚次郎や宮沢賢治の実践と絡めながら、シンポジスト自らの実践や考えを、東北芸術工科大学の渡部泰山氏をコーディネーターにして、語っていただきました。



※開会行事、郷土からのメッセージ、シンポジウムの様子は、YouTube（動画配信サイト）にてライブ配信されました。

分科会

5つの分科会に分かれ、参加者は熱心に議論しながら研修に臨み、学びを深めました。5つのテーマは以下の通りです。

- ① 持続可能な地域づくりの担い手となる若者や女性が活躍できる社会の構築
- ② 地域とともにある学校づくり・学校を核とした地域づくりの推進
- ③ これからの時代を見据えた公民館とコミュニティセンターの在り方
- ④ 誰もが共に成長し認め合える地域社会の実現
- ⑤ これからの時代に求められる社会教育委員と公民館運営審議会委員の役割

最上地区からは、「一般社団法人とらいあ」の高橋一枝氏が第1分科会の事例を、「NPO法人指定障がい福祉サービス事業所『すぎのこハウス』」の佐藤明美氏が第4分科会の事例を、それぞれ紹介しました。



※Zoom（Web 会議ソフト）を利用し、東北各地の参加者とオンライン形式で双方向での話し合いを行いました。

『参加者からの声』

<リモート・オンライン開催について>

- リモートでの開催でしたが、動画の視聴期間がある程度設けられているので、もう一度聞きたいところやシンポジウムのパネル等も再度見直しできるのはありがたかったです。
- オンライン開催のメリットを生かして、実りのある研修会を行うことができました。今後も広範囲からの参加者を募る場合には、オンラインの良さも取り入れていくべきだと思います。
- 縮小した大会でしたが、簡素化できる部分が適格に簡素化されている一方、内容は充実していました。
- リモートの便利さも感じましたが、アトラクションや発表などは、臨場感のある「生」で見たかったです。情報化の時代でもありますが、社会教育に関しては、少し遠回りしたり、時代に逆らった体験をしたりすることも重要なのではないかと、事例発表などを聞いて改めて感じました。

<郷土からのメッセージ・シンポジウムについて>

- 松田甚次郎という優れた実践家を取り上げて、地域づくりという社会教育の普遍的なテーマに落とし込んだ内容は見事なものでした。
- 郷土からのメッセージと関連付けたシンポジウムの流れは、工夫がみられとても良かったです。郷土愛が伝わる大会で、とても感動しました。

<分科会について>

- Zoom を使った分科会でさまざまな意見を聞くことができ、非常に充実した内容でした。たくさんの刺激と貴重な話を伺う機会となりました。
- 実践発表された方々の真摯な取り組みが伝わってきました。一堂に会して開催される大会よりも身近に感じ、楽しく参加できました。
- グループ討議のような形での意見交換がなかったので、参加者と話ができる形があると良かったと思います。

＝大会を支えた団体・活動等の紹介＝

* ベルフォレ *

表彰式を盛り上げてくれたのが、最上町の森の楽器の会「ベルフォレ」です。ベルフォレは、地元の木材を使った手作り楽器を演奏する最上町のサークルです。メンバーが奏でる手作り楽器の音色は柔らかく、聴く人を優しい気持ちにさせてくれました。



当日、生演奏はできませんでしたが、録音された楽曲を流すことにより、画面に名前を紹介するだけの味気ない表彰式を、華やかに盛り上げていただきました。

* ステージ花 *

本大会の協賛企業でもある新庄市内の花店の軽部望氏に、ステージ花を創作していただきました。作品のテーマは、郷土からのメッセージとシンポジウムに通じる「松田甚次郎」です。暗く貧しかった昭和初期の農村の生活改善運動に生涯を捧げ、郷土愛にあふれ、明るく楽しい郷土を創ろうとした甚次郎の姿をイメージした素晴らしい作品でした。

参加者からは「松田甚次郎のイメージにぴったりだ。」「大きくて度肝を抜かれた。」「ダイナミックなステージ花で驚いた。」という感想が聞かれました。



* 地産地消弁当 *

参加者から、最上地方の郷土食を堪能してもらおうと、総合支庁の農業振興課と食堂、最上地区社教倶楽部、新庄北高校探究部、新庄南高校食物部、新庄神室産業高校ライフクリエイイト部、新庄東高校Tコースと連携し、特製弁当の開発に取り組みました。高校生からは、最上伝承野菜や最上産の食材を使ったレシピづくりと弁当の懸け紙のデザインを担当してもらいました。山形県内からの参加者にも提供する予定でしたが、完全リモート開催となり、最上管内の限定された方だけへの提供となりましたが、「おいしかった。」「とても豪華だった。」「多くの人に食べてほしかった。」との感想が多数寄せられました。



◆大会参加者

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県				福島県	東京都	合計
					村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区			
一般参加者	19	32	40	82	100	47	41	53	24	0	438
(内被表彰者)	(8)	(6)	(13)	(5)	241				(9)		(66)
大会関係者等 (来賓・役員・スタッフ・出演者)	2	2	2	2	144				2	3	157
合計	21	34	42	84	385				26	3	595